

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	NPO 法人東京学芸大 子ども未来研究所
園名	学芸の森保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水を感じる

<テーマの設定理由・ねらい>

- ・生活の中の色々な場面で水と関わっていることを知る。
- ・普段のお散歩先や園内にも水があることを知る。

5、6月…普段の遊びの中で水を感じる

(戸外遊び・シャボン玉・田植え・小麦粉粘土あそび・スタンプ遊び)

7、8月…水遊び・プール遊び

9月…色水遊び(食紅)・水、氷あそび

10月…散策活動・寒天あそび

11月…普段の遊びの中での水との関わり(散策の中の水)

12月…かぶの収穫

1、2、3月…普段の遊びの中での水との関わり(霜柱・氷・雪あそび)

2. 活動計画

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・色水(絵の具・カップ)・小麦粉粘土(絵の具・小麦粉・水・塩・油・マット)
- ・スタンプあそび(絵の具・ヤクルトの容器・マット)
- ・寒天あそび(寒天・絵具・カップ)
- ・水遊び道具(じょうろ・ビニールプール・ホース・シャワー・タライなど)・水についての絵本・水槽

4. 探究活動の実践

<活動の内容> <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

時期	活動	保育者の思い	子どもの様子
5月	雨上がりの外の様子	<ul style="list-style-type: none"> 雨の雫や空気や匂いを感じてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ草花に水が溜まって（ついて）いるのか不思議がる 保育者と一緒に深呼吸をしたり、保育者の感じた言葉を繰り返したりしていた。
	シャボン玉	<ul style="list-style-type: none"> 液体が風船になる面白さを感じてほしい 大きさの違いや飛んでいく事消える事を面白がってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> わぁーと追いかけたり、もっと作ってほしいと要求したりしていた。 大きさの違いがわかり「大きい」と声を出していた。 
	田植え見学	<ul style="list-style-type: none"> 水の張っている中に植えるということ、それがお米になるという事を知ってほしい 年長になったら自分たちもやるという事を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中に入って泥遊びしたい！という様子で見学していた。 
6月	スタンプ	<ul style="list-style-type: none"> 手の感触や汚れが気になる子でも楽しんで、色水が楽しめたら良い 	<ul style="list-style-type: none"> 手につかないので色々な色を楽しもうとする 絵の具が無くなると作ってほしいとアピール…水で絵の具を解く様子をじっと見ながら待つ  
	小麦粉粘土（色なし）	<ul style="list-style-type: none"> 感触を楽しんでほしい（食べられる粉に水を入れた粘土だと伝える…理解しなくても良い ゆくゆく、作るどころから見せたい） 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は恐る恐る触っていた。 
	汗拭き・水分補給	<ul style="list-style-type: none"> 清潔になる事の心地良さを感じてほしい 水分補給の大切さを伝えていく 	<ul style="list-style-type: none"> 清拭をすると、「冷たい」や「くすぐったい」と楽しそうな様子があった。 遊びたくて、飲まないという子もいたが、暑くなりだすと自ら欲しがる様になった。

	プール	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとプールに入る楽しさを知ってほしい ・次年度に向けてプールに入る流れを知ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・始め水につかることに緊張している様子があり、立ってあそび出す子が多かった。 ・座って遊べる様になると水を掛け合ったり、おもちゃを使ったりする様になった。  
	水あそび	<ul style="list-style-type: none"> ・水の色々な性質を知ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・水車やペットボトル、ジョーロ、チューブの水鉄砲など、保育者の遊び方を見ていて、すぐに自ら遊び出す子が多かった。 ・水に対しての抵抗がなくなってからは、積極的に楽しんでおり、頭から水がかかっても楽しむ様になった。
	雨の日のシャボン玉	<ul style="list-style-type: none"> ・雨を感じてほしい（音・空気・植物・気温） ・シャボン玉の不思議を感じてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「冷たい」と言葉が出た→触らせると喜ぶ姿があった。 ・ポツポツ・パラパラなど雨の音を表現する擬音語を真似する姿があった。 ・シャボン玉を追いかけて楽しむ。手でつかまえる、つぶすと、手が濡れることに気付く姿がある。
7月	色水あそび	<ul style="list-style-type: none"> ・水あそび、水に触れることに慣れたので水に色がつくことを知らせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・色のついた水をながめていた。 ・水に触れることに躊躇している姿があった。  
	小麦粉粘土	<ul style="list-style-type: none"> ・色水をしたので色をつけた、色々なものに色がつくことを知らせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の小麦粉粘土遊びより、色を付けることで楽しむ姿が見られた。また、一度経験をしていることで積極的に楽しんでいた。 
8月	泡	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスが隣でやっていたのを見て、どんな反応をするのか、泡も水がないとできないことを知ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに手を出して楽しむ子と触ることに戸惑う子がいた。 ・続けて遊びを繰り返すと、容器に入れてジュースやアイスに見立ててあそびを楽しんだり、体につけたり、水をかけると消えることに気付く姿があった。
	夏まつり	（季節の行事を楽しむ）	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具のジュースを飲む真似をしている姿が見られる。 ・ヨーヨーが水に浮いているのを釣るのを楽しんだり、ヨーヨーを触って中の水が揺れて音がすることを楽しんだりしていた。 
	水あそび	水の性質を感じながら、色々な感覚を感じてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者がするのを見て、ジョーロや容器、チューブの水鉄砲に自分で水を入れようとする姿があった。 ・水を入れると、重たいと感じる様子が見られている。 ・シャワーやミストを使って、身体や顔に水がかかると、水の勢いや冷たさを感じていた。 ・水路から流れてくるおもちゃをすくうことを楽しむ。また、水をせき止めることで水の勢いが

			増すことに気付く。
	プール	みんなで入ることで楽しめるあそびを知ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・プールに入る人数が少ない時は、水の掛け合いも楽しむ様になった。
	色水あそび	色水を自分で作ることで、色の変化や「混ざる」ということに興味を持ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作った色水に驚きの表情、混ぜることで色が変わることを喜んでいた。 ・友だちの色水を欲しがう様子も見られた
9月頃	色水遊び（食紅）	色の違いや、水に色がつく事を知る	<p>色水をみると、色に反応する。その後、ペットボトルやカップに入れ始めると「ジュース」と表現し、楽しむ。</p> <p>赤→いちご、りんご 黄色→バナナ、れもん 青→あお味、ジュース味</p> 
	水×氷あそび	水と氷の感触の違いを感じる	<p>氷を持つと顔をしかめ、「冷たい」と言う。1人がコップに入れ始めると、真似る。水も一緒に入っていたため、どんどん溶けていくのを見ると「無くなっちゃった！」と泣く子も見られた。ペットボトルに入れようとするが、入らない。じつくり10分ほど遊んでいると入れる事が出来た。溶けるという事には気づいていない様子。</p>  
10月	散策活動	季節の自然を感じる（秋）	<p>散策中に池を見つけた子どもたち。「海だね」「うみはひろいな～♪」と歌い始める。移動すると、大学内のプールに鴨を発見。「鴨さんは、うみのおうちだね」と言い始める。その後の散策では、池やプールを見ると海と表現。</p> 
	寒天遊び	寒天の感触を楽しむ。	<p>寒天の冷たさに「冷たい」「こおり？」と知っていた冷たい物を使って表現。寒天を水に入れると、寒天が動く様子を観察し、太陽に向け「キラキラだ」「かわいいね」「きれいだね」と表現していた。</p> 
11月	散策（雨の次の日）	雨上がりの水を探しながら散策を楽しむ。	<p>散策を始めると「水たまりだ！」と発見。のぞき込むと、何かがうつることに気づく。「バイバイ」と保育者が手を振って見せると、真似る。水たまりに「ツツツする」と触れると、水が動き、中の落ち葉が動く事に気がつく。それぞれに、指でつついたり葉っぱを入れて楽しんだりしていた。濡れた」「びちゃびちゃだ～」と衣類や靴が濡れていることにも気がつく。</p>  

	散策	散策中にある、水を見つけ て楽しむ。	<p>見つけた水シリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりに着く水滴 ・壁の切れ目から流れる水 ・木の葉っぱを揺らすと水が落ちる <p>→「雨みたい」と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草につく、朝露 ・石の椅子に溜まる水 <p>→叩くと飛び、濡れた手を振ると水が散る</p>
	散策	前回の遊びの続きを楽しむ	<p>前回の木を見つけると「雨降ったよね！」と思いつく。八手の葉っぱを以前傘に見立てて遊んでいた。2つが繋がりを、八手を傘にし、雨を降らせることを楽しむ。</p> <p>移動し、木を見つけると「雨降ったよね！」と思いつく。更に、水たまりを見つけると、葉っぱが動く事に気づく。息を吹いて動かそうとする。</p>
12月	かぶの収穫	収穫物を食べるためには、水で洗って食べる事を知る。	<p>収穫したかぶを「このまま食べてもいい？」と聞いてみると、「ダメ！」と即答。「どうやって食べようか？」と尋ねると「お水でぴかぴかにする」「ぐつぐつする」「おてて洗うところで」と子どもたちから意見がでる。みんなで洗って、昼食に食べる。</p>
	出汁に使われる食材に触れてみる	普段口にしている物と、水が関わっている事を知る。	<p>鰹節と昆布に水をつけて触れてみる。</p> <p>目の前で鰹節に水を加えたり、水で戻した昆布に触れた。</p> <p>「お水でべちゃべちゃ」「くさいおみずだ」「ぬるぬるする（昆布）」「ふわふわがなくなった</p>

			<p>ね」と発見を表現</p> 
	散策	冬の水に触れる	<p>散策中に霜がおりた葉っぱを見つめる。 「白いおはなだ」とポケットに入れ持ち歩く。暫くすると取り出す「みどりになっちゃった、ポケットが濡れてる」と表現。「白いおはなは、濡れてるんだよ」と発見。</p> 
	水を比べてみよう		<p>コップに入れたものは「ジュース」と表現する。続いてペットボトル（500ml、1L）も同じく表現。一人が発言すると、皆真似て行く。さらに、おおきな入れ物に入れると「みず」と表現する。さらに大きな水槽に水を入れると「おおきいみず」と表現。その後の散策では朝露を「小さい水」「キラキラの水」、水たまりは「雨の水」、木の葉っぱから落ちる水は「木の雨」と表現。</p>
1 月	散策	霜（氷）に気がつく	<p>霜柱を踏むと「かりかり」「さくさく」「どんどん」「ぱりぱり」と擬音を使って表現。触ってみると、どんどん溶け泥になる。「冷たいね」「こおりかもね!」と踏んだり、触ったり楽しむ。 「石に白い木がある! こおりの木だ!」と表現</p> 
	雨の日遊び	自然に降ってくる水で楽しむ	<p>雨の日（小雨）に、テント下に出てみる。雨に触れようと手を伸ばす。その後、テントの外に出ると濡れることに気がつき戻ってくる。テントから落ちるしずくに触れる。保育者が置いていた容器に気がつき、しずくを入れようと試行錯誤。手すりの水や、洗濯ばさみに溜まった水、水たまりの水にも気がつき楽しむ。</p> 
2 月	自然の水に触れる	氷の冷たさや、感触を感じる	<p>池に張る氷を保育者が取って見せる。子どもたちもそれぞれに触れる。「ツルツル」「キラキラ」「冷たい」と表現したり、氷を覗いて向こう側に景色が見えることを発見すると「みて～! いた～!」と知らせる。落ちて割れるのに気づくと「カーン!」と表現。踏んでみると「がりがり」「ぱりぱり」と音を表現。</p>

			
3月	雪遊び	雪の感触や、溶ける様子、水との違いに気がつく	<p>雪が降り、積もった園庭を見るが「雪」という感覚が子どもたちの中にある様子。「白いお山！」と表現。保育者が「雪」と伝えると興味が高まる。実際に触って見る（保育室にシートを敷き、タライに雪を入れて遊ぶ）。握ると溶けて水になる事に気づく「ぎゅってしたら、水がある！」暫く遊び溶けてくるタライの中身に気づくと「雪ない！もっと！」と言い、追加するも雪解け水に入れるためすぐに溶ける。「無くなっちゃうね」と水を混ぜ楽しむ。</p>  
	雪遊び②	雪の冷たさと水の温度の差を感じる	<p>・雪の次の日、戸外に出て遊ぶ。ぬるま湯の入ったタライも準備 雪ではじめは遊び、ぬるま湯には気がつかない、手が冷えてきたころタライの水に興味を示し、手を入れると「あついね」と表現。冷たい物が苦手な子は、自然とタライに手を入れ過ぎず。雪をタライに入れると溶ける様子を「無くなる！小さくなるね！」と楽しむ子も見られた。</p> 

5. 振り返り

初めは水を使用した遊びが「水を感じる」ことであると考え、活動を計画していた。しかし、計画した水遊びだけではなく、日々の生活の中にも水と関わっている活動が多くあった。（雨上がりの散歩や、汗を拭くこと、料理など）そしてそれらの活動は、子どもたちにとって日常となっていたことがわかった。日常での発見がより一層遊びに繋がることも分かった。

初めての活動や初めて触れる物（だし汁、氷、雪など）の時には渋い表情の子どもたちも、二度目には楽しんでいる子どもが増えていた。繰り返し同じ遊びをすることで子どもたちの反応や楽しみ方が広がっていた。

また、遊びの中で言葉を知るきっかけにもなった。例えば雪や氷などの単語を知らない子どもたちは、雪を「白いお山」と表現したり、氷を「つるつる」「キラキラ」と表現したりするなど、知っている限りの言葉で表現していた。これらは保育者が予測した子どもの反応とは異なる姿であった。

このように、1歳児だからこそ初めての水との出会いが日常の中にたくさんあり、そこから水の仕組みを知ったり、新しい言葉を知ったりする姿があることが分かった。そして、生活に身近にある「水」というテーマである故に、生活の中で遊びが生まれるきっかけがたくさんあることにも改めて気付いた。そのため、日常の中での子どもたちの発見や発言を逃さずに受け取り、考えることが重要であると感じた。